

進路だより号外

2017～2018 第13号

発行
栃木県立盲学校
進路指導部

進路指導エッセイ

保護者の皆様、こんにちは。短い3学期もあっという間に2月半ばとなり、まもなく平成29年度も終わりを迎えようとしています。

今日は、「進路指導エッセイ」と題して、短い3学期にも実にいろいろな進路指導に関するできごとがありましたので、そのことを中心に、気ままに書きつけてみたいと思います。とりとめのない話で恐縮です。

《高等部第Ⅲ期産業現場等における実習から》

本校が設定している期日は1月22日～2月2日でしたが、県内全ての特別支援学校がこの時期に実習を行うので、どうしても優先順位の低い低学年は時期がずれ込むこととなります。本校生は最も遅い生徒で、終了日が2月23日となりました。

Ⅲ期は、主に福祉就労や生活介護に関する実習に取り組む生徒が多かったですが、それぞれの事業所を巡回し、先方から指摘されたことは…

- ・困っていること等、「気持ち」を表現できることが大切です。
- ・「切る、折る、貼る」は福祉就労において必要な力です。
- ・指摘を素直に聞けること、返事とお礼が言えることが大切です。
- ・席を立ったら椅子は戻す、靴を揃える、ロッカーの中に荷物を押し込まない…という基本的な習慣を身につけましょう。



学校や御家庭で普段指導されていることが、そのまま卒業後の生活に結びつく、ということですね。例えば椅子を戻す、というのは、そこを歩く人のことを考えて、という「他者へのまなざし＝思いやり」を持つということです。思いやりを持つことは、「愛されキャラ」になる一つの大きな要因と言えるでしょう。また、「靴を揃える」というのは、やはり「来るか来ないか分からないお客を待つ心遣い」という思いやりとともに、内と外との境界線である「玄関」を整えるという意味で、オンとオフの切り替えがうまくできている、ということにもなります。

《中学部進路学習にて》

障害者就業・生活支援センター職員を招いて、「身だしなみ講座」を実施しました。そこでのアドバイス…

- ・おしゃれと身だしなみは違います。
- ・努力しただけ結果が返ってくるのが身だしなみです。頑張りましょう。
- ・自分と周囲の「良し」は、基準が違うことがほとんど。周りの声を聴きましょう。
- ・「習慣」になるまで続けましょう。「習慣化」されたことにはストレスを感じません。
- ・身だしなみが整うと、印象で相手を操作できるんです。

講師は「身だしなみは武器になる」とおっしゃっていました。以前支援した方が悪徳商法にひっかかりそうになり、断りを入れるために同行したことがあったそうですが、その時あえてスーツで出向くことにしたそうです。だまそうとした相手に「きちんとした人間だ」という印象を与えることで、無事契約せずに済んだということでした。

《企業訪問を受けて》

4月からの障害者法定雇用率アップを控えて、各企業に新たな人材を確保しようという気運が高まっています。これまで、全くと言っていいほど企業側の意識に上らなかった（涙）本校にも、ここのところ複数の企業から問い合わせが来ており、実際学校訪問をしてくださる企業もあります。つい先日も、ある会社が「一般事務職に誰か良い人材はいないか」と本校を訪れました。その時先方がおっしゃったことをまとめると…

- ・雇用率の引き上げに伴い、我が社でも障害者を雇用することになった。
- ・統合失調症を抱えた社員が、雇用条件のトラブルで辞めてしまった。明らかにフルタイムの勤務は難しい状態であったため、短時間労働からのトレーニングを提案したのだが折り合いが付かず、ケンカ別れのようになってしまった。
- ・精神障害者の雇用促進と国は言うが、私たちはそれがとても難しいことだと知った。
- ・知り合いの視覚障害者がとても良い人で、盲学校の生徒なら…と考えた。

雇用率の引き上げによって、例えばこれまで行われていなかった真岡地区単独での「障害者合同企業面接会」が企画される等大きな動きがありますが、5年ごとに見直される雇用率は今後もその都度このようなムーブメントを引き起こすのでしょうか。法律が変われば態度も変わる、というのでは少々不謹慎ではないか、とも思いますが、この先どんどん障害者が働ける場所が増えるのは良いことです。一方で、「人工知能の爆発的普及によってシンギュラリティを迎えた人類は、不労者となる」という指摘もあります。技術によって時代を作ってきた人類の、これまでの叡智を結集して作りだした最高傑作が「怪物」であることに気づいた時にはすでに手遅れ…なんてことにならないければよいのですが。



《なぜかここで恵方巻き大量廃棄問題》

皆さんもニュース等でお聞きになったでしょうか。兵庫県のスーパーが「もうやめませんか」というチラシを作成し、「私たちは必要以上には作りません」と、恵方巻きの大量廃棄に一石を投じた、という話題。

そもそも「恵方巻き」を節分に食べるという習慣ってありました？うちではつい数年前から、「そういうことになっていますので」的に、いつの間にか2月3日の食卓に海苔巻きが並ぶようになりました。このような「行事」には、必ず消費社会の闇が潜んでいます。誰かが儲けるために大衆をあおり、自分で考える力をなくした大衆は、付和雷同して消費行動に走る、という図式です。多くの流行や社会現象も根っこは同じです。そこに一石を投じた、と絶賛された兵庫県のスーパーにしても、「恵方巻き」そのものをやめよう、と言っているわけではありません。そこに他社との差別化で好感度アップを図る思惑を感じてしまうのは私だけでしょうか。

大阪発祥の文化的行事であると言われているようですが、どうやらそれも定かではないようですし、そろそろここで『もう「恵方巻き」をやめませんか』いや、「自分の頭で考えず、だまされてしまうことをやめませんか」。